

事務事業 No./名称	■サービス部門 環境-03 分別収集運営事業					ザイムスコード及び個別事業名		
	□支援部門					1101	収集処理事業	
	主管課 資源循環課 関連課 名越・今泉クリーンセンター					1211	収集処理事業	
	分野名 生活環境					1213	分別収集施設・設備運営事業	
目標 (目標値)	効率的な収集・処理体制の確保と廃棄物の適正処理。 平成22年度のごみ焼却量を平成15年度の10%減とする。							
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考				
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)				
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯					
運営資源 状況	決算値	634,544千円	603,769千円					
	(国・県)							
	(負担金等)	173,695千円	258,728千円					
	(一般財源)	460,849千円	354,041千円					
	人員配置数	4.9人	4.7人					
	人件費	43,970千円	44,120千円					
	協働の パートナー							
事務事業 運営経費	総事業費	678,514千円	647,889千円					
	市民1人当 りの経費	3,841円	3,671円					
	対象者1人 当りの経費							
ベンチマ ーク(県内外自 治体や民間 団体との比 較値)	団体名	横浜市	横須賀市	逗子市	藤沢市	鎌倉市		
	一人当たりごみ 排出量(g/日)	965g	1,071g	986g	903g	1,095g		
	資源化率	27.9%	36.0%	24.4%	31.5%	47.8%		
創意・工 夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・分別排出された容器包装プラスチックの中に、汚れが付着しているものや禁忌品の混入が 多くみられるため、改めて分別排出の啓発を行う必要がある。						
	創意・工 夫・課題等 の改善点 21年度の 成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・平成21年度はごみ焼却量が平成19年度に比べ3.3%の減となっており、減量の目標値を 下回ることができた。また、上記の課題の解決を含め、分別強化月間を設け、分別の啓発を進 めた結果、平成16年度から平成20年度まで人口10万人以上の都市で5年連続日本一のリ サイクル率を達成することができた。市民・事業者の協力の賜物と分析している。						
	未解決の課 題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・平成21年度に実施した燃やすごみの分析調査では、資源ごみの混合割合が平成19年度よ り改善されてきているが、依然として23%と高い比率を示している。						
	今後の方針 (対応・改 善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・市民に対する分別の徹底を推進するため、自治町内会での説明会や若年層への環境教育 などに力を入れて、分かりやすい分別指導をしていく。						
一次評価(課長評価)					二次評価(部長評価)			
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了								
評価結果	改善の必要性				評価結果	改善の必要性		
B	有	廃棄物の総排出量、ごみ焼却量の削減に向 けて、資源物の分別を徹底するための啓発 を推進する。			B	有	循環型社会の形成を目指して、分別 への啓発をさらに進める。	
課長名		古屋善啓			部名・部長名		環境部 相澤 千香子	